

● C社は約40名のドライバーを抱える運送会社である。冷凍食品から電化製品まで、多様な荷物を、関東を中心として全国に運んでいる。ご本人も元ドライバーである社長は、無類のトラック好きで、トラック好き社員の心をとらえた方法で、モチベーションアップを図っている。

● 大手運送業がスタンダードと呼ばれる車両を使用しているのに対し、C社のトラックは出来る限りのオプションをつけた最高級グレード車両である。スタンダードよりも1台当たり200万円ほど高額になってしまうが、「エンジン・馬力も一番良くて、トラック好きにはたまらないよ」と社長は笑顔で話す。

● ドライバーは、1日の大半をトラックで過ごす。トラックが職場そのものなのである。「トラック運転手は1人社長みたいなもの。」と話すH社長は、「いい車なんだから大事に乗ってくれよ」という思いで、最高級グレード車両を社員達に託す。また、上手に燃

費を上げて乗れば、結果的にはコストパフォーマンスも良いのだと言う。

● こんな社長の親心を、社員たちはしっかり受け止めている。「他社のトラックと並んだ時、うちのトラックはかっていい。いいトラックだとテンションが上がる」と話す元フリーター社員のmさんは、快適な職場環境に満足して働いている、とのことである。